

動労「本部」はスト破り集団だ



81. 3. 18

No. 693

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)八〇〇 電話五二七二〇七

怒りを新たにし 「本部」派支部を解体せよ

日本全土を揺がした動労千葉の五日間ストライキは、「ストなし春闘一策動のなかにあって、全国の闘う労働者人民に「闘えば勝てる」という勝利の展望を与え、動労千葉に続け」という声は燎原の火のごとく燃えひろがっている。同時に、五日間ストライキが切り拓いた情勢は、新たな闘いへの出発点であり、動労千葉に対する報復的処分・弾圧策動に対する正念場の闘いである。かかる中において、国家権力・国鉄当局の尖兵として五日間ストライキのスト破りと化し、今にいたるもスト破りを正当化し、公然とひらきなめるばかりか、鉄労以下の言動をくり返し、動労千葉破壊を画策する動労「本部」スト破り集団を、国鉄労働運動・日本労働運動の名において断罪しつくさなければならぬ。

動労「本部」派のスト破りの実態

動労「本部」はスト破り集団である！
事実は小説より奇なり、——いくら動労「本部」反動分子が、かつての「鬼の動労」の栄光をかくれみのにし、彼ら一流のデマ宣伝をもってしてもスト破りという労働者にとって唾棄すべき階級的大罪からは逃がれることはできない。その裏切りの実態は、次の如くである。

① スト破り要員＝助役機関士線見訓練を積極的に受け入れた動労「本部」！

「本部」派鈴木正広(佐倉)は、助役機関士線見に反対し、運転室にラッチ(錠)をかけて闘う、等と言いがれしたが、それも真赤な大ウソであり、二月十九日、動労千葉組合員が成田・佐倉両拠点で体を張って阻止闘争をたたかっている最中、「公安官の助動、ガードマン・県警で警備の万全を期す」なる「要求」が前進したとして「助役機関士線見受け入れ」をおこなうというスト破りを宣言したのである。

② 国鉄当局に「保護願い」を提出し、公安・白腕によるガードを要請した「本部」派！

三月二日、動労千葉がストライキに突入するや佐倉「本部」派・土屋幹らデッチ上げ「支部三役」は職場に顔をすらしみせず、「本部」派組合員を「当局の言いなりになれ」と指示して「保護願い」を提出させ、マル生スト破り分子よろしく当局職制・公安官に手厚く防衛されてスト破りジェット列車に乗務させたのである。

さらに、動労千葉のストライキによって三月三日のジェット列車七本すべてがぶっとまるという状況の中で、当局が翌四日から助役機関士を導入して強権的なスト破りを画策し、三日夕刻

よりの機関車回送を行ったのであるが、佐倉「本部」派はこれに卒先協力して「スト破りB変仕業」を受け入れて、機関車回送を積極的に行ったのである。

しかも四日以降は、国労が助役機関士導入に抗議し列車掛の乗務拒否闘争へ突入したにもかかわらず助役機関士と共に重連機関車にスト破りとして当局に警護されて積極的に乗務したのである。

③ スト破り工作の先頭に立った動労東京地本委員長松崎明！

動労の「顔」とたてまつられる松崎明・東京地本委員長は、動労千葉の五日間ストライキと総武国電をはじめとする全線スト戦術の迫力の前に完全に圧倒され、驚がくし、なんと国労に対して「総武国電を国労と動労(「本部」)で動かそう」とスト破りの申し入れまでしたのである。これに対して国労は「ハッキリと拒否し(助役機関士導入抗議、列車掛乗務拒否、B変仕業反対)」で答えたことは周知の事実である。さらに許せないことには、スト期間中連日連夜にわたって「ストをやめる」等々と、時には動労千葉組合員の名をかたつてまで悪質電話(ナーバス電話)をかけてきたのである。

全組合員のみなさん。これが動労「本部」スト破り集団が行ったわが動労千葉へのスト破り敵対行為の実態である。この「本部」派スト破り集団を断じて許してはならぬ。

怒りも新たに、「本部」派支部解体・銚子支部早期結成にむけ全力を傾注しよう。

3.21 三里塚現地大集会へ
(正午・三里塚第一公園・主催:反対同盟)
成田運転区、10時集合